

# 北九州市環境科学研究所報

第 42 号  
(平成26年度)

北九州市環境科学研究所



## 北九州市民憲章

わたしたちのまち北九州市は、美しい自然に恵まれ、  
ながい歴史とたくましい産業をうけついできました。

わたしたち北九州市民は、このまちを愛し、よりいっ  
そうの市民参加によるまちづくりをめざしています。

このふるさとに、実りある未来を築くため、わたした  
ちは、みんなで守る約束を定めます。

緑を豊かに 清潔で美しいまちにします

きまりを守り 安全なまちにします

人を大切にし ふれあいの輪をひろげます

元気で働き 明るい家庭をつくれます

学ぶ楽しさを深め 文化のかおるまちにします

## はじめに

環境科学研究所報第42号の発刊に際しまして、ご挨拶を申し上げます。

あくまでも、個人的な見解ですが、環境科学研究が公害というキーワードを失って久しいと思います。当所は、設立目的に地域の公害対策に資することであったのは、言うまでも無いことです。昭和40年に設立された当初は数名の所員で細々と一般環境の現状把握、工場の排ガスや排水分析を行ってきました。時は流れ、産業公害という工場由来の環境汚染は沈静化しましたが、環境への意識は益々高まり、例えば、1992年に開催された「リオのアースサミット」では実に172カ国から政府・産業界・地方自治体・NPOなどの代表約4万人が集まり、環境という言葉が世界の共通語になっていることを知らしめました。ちなみに、このサミットに本市も参加し本市の公害克服や国際貢献の実績が評価され、「国連地方自治体賞」を受賞しました。

環境に大きな注目が集まる中で当所は国や市の施策に基づき従来の環境調査や化学物質問題などへの対応に加え、環境国際協力や環境教育などの新事業も展開してきました。その後、これらの業務は現在のアジア低炭素化センターや環境ミュージアムなどの施設や組織に繋がり、環境局の主要事業の一端を担っています。このように当所は環境施策の分野で、いわばインキュベーション施設としての役割を十分に果たしてきましたが、公害問題の終焉に伴い、現在、担うべき新たな分野を構築する産みの苦しみを味わっているところです。

その一方、微生物部門では感染症の地球レベルの広がりを受け、いわば、わが国のファイヤーウォールとも言うべき大きな期待が地方の衛生研究所にかけられています。平成27年上期の韓国におけるMERS騒ぎに見られるように感染症の侵入を防ぐには水際の対応が最も重要であり、そのための検査精度の維持、向上は必要不可欠です。

そこで、国では平成28年度4月1日施行の感染症法の改正に伴いGLPの考えを従来の食品や上水道に加え、微生物分野にも拡大する予定です。それを受けて、当所ではGLP構築に向け準備を進めつつありますが法の規則等に明確な決まりが無いため当所独自の考えに基づき作業を手探りで進めているところです。精度の高い検査結果を出すのは研究者としてのプライドでもありますので、しっかりとしたシステムを構築すべく担当者が努力を重ねています。

最後になりますが、今後も環境・保健衛生の分野でしっかりと責任を果たしていきます。皆様の一層のご理解、ご協力を賜れば幸いです。

平成27年12月

北九州市環境科学研究所  
所長 山下 俊郎

# 目 次

第1	沿革・組織及び概要	
1	沿 革	1
2	組 織	1
3	検査件数	2
4	予算概要	3
5	分析機器整備状況	4
6	庁舎配置図	5
第2	業務内容	
1	試験検査	
	環境部門	6
	衛生化学部門	9
	微生物部門	16
2	そ の 他	21
3	調査研究	23
第3	講演発表・報告書	
	(講演発表)	
	・PM2.5微量金属成分分析におけるICP/MSの内標準について	29
	・洞海湾における生物の変遷	31
	・北九州市洞海湾における水質汚濁の推移と生物相の変遷	35
	・北九州市洞海湾における水質の改善と付着動物組成の変化	36
	・小型固相を用いた農作物中残留農薬試験法の妥当性評価結果について	37
	・腸管出血性大腸菌の異同判別スクリーニング法の検討	39

(報告書)

- ・ 化学物質分析法開発調査報告  
 (1,3-ビス[(2,3-エポキシプロピル)オキシ]ベンゼン) ..... 41
- ・ 食品中残留農薬に関する一日摂取量実態調査 ..... 42
- ・ 北九州市内の幼稚園で集団発生した細菌性赤痢の状況 ..... 47
- ・ astA遺伝子を保有する大腸菌による食中毒事例について ..... 50